

私にも
言わせて!
第99回

2人の兄貴分に導かれ
研修医から救急医、そして行政医へ



宮城県東部保健福祉事務所兼東部保健福祉事務所登米地域事務所兼気仙沼保健福祉事務所(宮城県石巻・登米・気仙沼保健所)地域保健福祉部技術次長(地域医療担当)

野上 慶彦

宮城県出身、平成16年東北大学医学部卒業。仙台市立病院初期臨床研修医から救急科医長を経て、30年宮城県入庁。31年4月より現職。

インターネットで「公衆衛生医師」と検索すると、検索候補の上位にこの「期待の若手シリーズ」が掲載されている全国保健所長会のホームページが出てきます。今から数年前、臨床で救急医だった私は自分の将来に悩んでいた際に、本コーナーを読んだことが行政医を目指すきっかけの一つとなりました。これまでの自分の医師人生を振り返りつつ、私の記事がかつての私のように行政医になるかどうか悩んでいる若手から中堅医師の参考になりましたら幸いです。

研修医から救急医へ

(1人目の兄貴分との出会い)

平成16年から医師臨床研修の必修化が始まり、医学部を卒業した医師は2年の間に定められた複数の科を研修することが義務付けられ、私はその1期生となりました。複数の科を研修するということは科一つ当たりの研修期間が短くなるため、とある科を目指していた私は、その科一筋で研修を積んでいた1学年上の先輩医師との実力差を痛感してい

て、2年の初期研修を終える数か月前から「このまま入局しても通用しないのでは?」と悩んでいました。

そんな様子を察してか、オンラインでもオフジョブでも大変世話になり、救急の道に進んでいた3学年上のK先生から、「せっかくいろいろな科を研修しているんだし、お前の目指している科も含めて、もっと総合力を高めればいいじゃないか。救急はさまざまな患者を診察するからうってつけだぞ。しばらく一緒に救急を

やらないか」とお誘いを受け、1人目の兄貴分であるK先生にひとまず付いていくことに決めました。

救急医生活、
そして感じた限界

救急に在籍するのは当初、期間限定と決めていましたが、日々の救急診療や東日本大震災を含めた災害医療をK先生と共に歩んでいるうちに、いつの間にか10年以上も救急医を続けていました。

しかし、兄貴分だったK先生と一緒に勤めていた病院を去った上に、日々の救急診療でも、せっかくよくなって帰ることができたのに自宅での療養環境が悪いがために、また病院に戻ってくる患者が非常に多く、このまま救急医を続けることに不安とむなしさを感じ始め、「患者の自宅における療養環境を改善するために

て、この世界に入ってきてよかったと感じています。

今後に向けて

今年度で医師17年目になりました。2人の兄貴分を追いながら、医師人生4合目付近まで到達することができました。今年、国立保健医療科学院専門課程I保健福祉行政管理分野分割前期(基礎)を修了しましたので、資格面では保健所長を拝命し、行政医として独り立ちしなければならぬ可能性が出てきています。これからはその可能性を念頭に置きつつ、保健所事業における戦略的対応について、兄貴分からいっそう吸収しながら研鑽を積んでいきたいと思えます。

そして、医師人生10合目までに、私が行政医を考えたきっかけである「患者の自宅における療養環境を改善するためにはどうすればよいのか」、その戦略的解決手段を見いだし、関係者と調整しながら実行できるように励んでいます。

救急および災害医療業務の一部を担当し、臨床時代の人脈と経験を生かしながら、補助金業務や訓練の企画・立案などを行いました。このまま2〜3年間本庁で行政の基礎を学びつつ、自分もまず得意分野で県に貢献していこうと思っていた矢先、本庁の医師人事担当者から「鈴木保健所長が31年度から3つの保健所勤務となるが、1人の医師で3エリアをカバーするのは困難なため、あなたが補佐役で入ってもらえないだろうか」との提案を受けました。面談時に「一度は一緒に働いてみたい」と思っていたこともあって、「ぜひに!」と快諾しました。

3保健所勤務の現在

鈴木保健所長と私とで、日替わりのローテーションを組みながら、3つの保健所で働いています。月曜日から金曜日にかけては、鈴木保健所長が石巻、気仙沼、石巻、登米、石巻に、私が石巻、登米、気仙沼、石巻、気仙沼に詰めるようにしています。基本的には週のうち多くの日でお互いが別々の保健所で働いていま

すが、有事の際や重要な会議がある場合には、スケジュールを変更して一緒に保健所に詰めるようにしており、COVID-19患者が地方でも増えてきた令和2年10月ごろからは、特に一緒に勤務する時間が多くなっています。3つの保健所とも、保健所事業における戦略的対応は鈴木保健所長がすべて構想を練っていますが、災害保健医療体制構築の一部や感染症・精神通報・食中毒などの有事における戦略的初期対応は、鈴木保健所長と報連相を行いながら私も担当しています。このように、特に戦略面では、完全に見習いの状況ではありませんが、先日、保健所のある事業に非協力的だった関係者に対して鈴木保健所長が直接訪問し、医師としての専門的な見地から事業の意義を繰り返し丁寧に話しているうちに、最終的にはその関係者が良き協力者となってもうることができたという場面を目の当たりにしました。兄貴分の背中を見ているだけでも、行政医のやりがいや面白さを少し理解できたような気がしますし、改め

「期待の若手シリーズ 私にも言わせて!」は、
全国保健所長会ホームページに
バックナンバーが掲載されています。

全国保健所長会 月刊公衆衛生情報

で検索してください

http://www.phcd.jp/update/archive_02_j_koushusei_watashi.html